

【 2024 年度 聖隷こども園・保育園 施設関係者評価 】

園名 聖隷こども園わかば

目的：浜松磐田地区の聖隷福祉事業団のこども園・保育園及び関連法人のこども園が、お互いに客観的な視点で施設評価を行うことで、保育の資質向上を目指す。

評価日・評価者

評価日 2024 年 10 月 10 日

評価者 園 名 聖隷こども園めぐみ

役 職 園長 氏 名 富永 裕美

評価者 園 名 聖隷こども園こうのとり東

役 職 園長 氏 名 平野 春江

【保育・教育理念】

聖隷の保育・教育理念が、日常の保育・教育に反映されているか。

- ・愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
- ・一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。
- ・自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
- ・在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

コメント

保育・教育理念を基にわかばが歩んできた歴史と共に大切に引き継がれてきた保育や想いを感じさせるような職員のあたたかな声掛けや関わりが見られる。園児一人ひとりの成長発達や興味・関心を大切にした年齢に応じた適切なグループ数での保育を展開するための工夫が見られる。また、自然豊かな環境を活かして年間を通して五感を使った遊びや栽培等に取り組み、体験を通した学びを大切にしている。

【人権尊重】

常に子どもの立場に立って、子どもの成長に最善となるような取り組み（関り・配慮）がなされているか。

コメント

園児一人ひとりの言葉（表情や仕草等も含めて）を汲み取りながら子どもの理解につとめ、個に応じた対応や関わりを見出している。

【情報保護】

個人情報の保護は適切であるか。

コメント

マニュアルが整備されており、保護者や子どものプライバシーの保護、園に連なる関係情報に関して秘密保持は徹底されている。

【苦情対応】

意見や苦情に対して、適切な対応ができているか。

コメント

必要に応じて園長、主幹保育教諭が対応するなど適切な対応がされている。副主任会で振り返りと解決策を検討し、職員へと周知しており園全体で取り組まれている。

【保健・衛生】

園児の感染症等の情報提供、日常の健康観察や感染症の拡大防止等の取り組みがなされているか。

コメント

衛生委員会を毎月実施して振り返りの場を設けている。また看護師が中心となって情報提供し、必要に応じて園内研修の場を設けている。

【安全】

救急・防犯・避難訓練等を通して、職員・園児の安全対応能力の向上を図るための取り組みがなされているか。

コメント

防災委員会を毎月実施し、定期的な振り返りや職員や園児への安全対策教育等の計画や実施を行っている。

【運営】

施設・設備の環境や管理等、運営は適切になされているか。

コメント

法人本部の施設整備担当職員が定期的に点検を実施している。施設整備が必要な箇所について職員からの申請については、園長、主幹教諭が迅速に確認し修繕などの対応をしている。

【環境美化】

園内外の清掃、物の整理整頓等、清潔で整然とした環境になっているか。また、季節感等が感じられる工夫がなされているか。

コメント

園内外は、清掃が行き届き清潔に保たれている。玄関先には、花が飾られており季節感を感じることができる。食に興味関心が向けられるように給食職員発信のコーナーも設けられており親子で楽しめるようになっている。

【保育室】

室内の環境が子どもの発達に合わせて工夫され、玩具等適切に配置されているか。

コメント

成長発達や生活の導線を考慮した環境の工夫がなされている。玩具は、各年齢において、こどもが遊びたいと思う時にいつでも手に取れるような環境設定や玩具の種類や数等についての園内での学び合いができると更なる保育の質の向上に繋がると考える。

【保育内容】

全体的な計画に基づき、「歳児別保育目標」を意識した保育が展開されているか。

0 歳児

- ・ 神さまから預かったいのちとして大切にされる
- ・ 大人の愛情に包まれ、安心して過ごす
- ・ 意思がしっかり受け止められ、安心して自分らしさを出す

1 歳児

- ・ 保育者の祈りや讃美することを通して、神さまに出会う
- ・ 歩行と共に行動範囲をひろげ、興味・関心をひろげる
- ・ 神さまや周りの人たちに守られ、愛されていることを感じる
- ・ 全身を使ってあそび、言葉や身振りで自分の思いを表す

2 歳児

- ・ 神さまや周りの人たちに守られ、愛されていることを感じる
- ・ さまざまなことに興味・関心を持ち、保育者や友だちの中であそびを楽しむ。また、生活面の自立ができるようになる。

3 歳児

- ・ 保育者や友だちと一緒に讃美歌を歌うことやお祈りをすることを喜ぶ
- ・ あそびを通してイメージを広げ、社会や自然を理解し、友だちとあそぶことの楽しさやルールの大切さを味わう

4 歳児

- ・ 保育者や友だちと礼拝を守りながら日々を歩む
- ・ あそびを通して基本的な自然や物事の特徴を知り、友だちとのかかわりを通して葛藤を乗り越え、集団生活を豊かにする

5 歳児

- ・一人ひとりが神さまから違った良いものをいただいていることを認め合って過ごす
- ・共同的な活動を通して、子どもたちが自分の役割を知り、互いに認め合いながら、主体的に行事やクラスの運営を行う

コメント

歴史のある園であり、変わらないものとして受け継がれている保育者の愛情深いこどもへの関わりは、園の風土として受け継がれている。社会の子育て環境の変化や定員増によりそれらの想いを今後も繋げていくためには、保育の方法（少人数での保育や流れる日課等）を検討する余地があると考える。

【全体を通して】

コメント

経験年数の浅い職員も多くいる中で、経験値を補うための人材育成が重要となるが、ワークライフバランスも整えつつも園内外への研修の機会を可能な限り設けていくことが課題のようである。職員全員が参加できる園内研修の充実を図り、教育・保育理念に基づく学びの時間を大切にしていることが伺えた。